



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2017年9月 Vol. 22

Kinky Shot! - 今月のキンシャサ -

INPPモニタリングミッション来訪!



8/6~12にかけて、JICA本部人間開発部より、INPPモニタリングミッションがやってきました。このミッションの目的は、現在実施中の技ブコ(SOLIDE)を中心とするこれまでの協力のモニタリングと、今後の協力の可能性を探ることでした。初日にはINPPを所管している雇用労働大臣からも感謝と熱烈的な歓迎をいただきました。途中、予定が大きく変更になるトラブル(いつものこと?)もありましたが何とか切り抜け、ミッションは無事に終了しました。INPPの持つ強み、オーナーシップの高さを改めて強く感じると共に、これまでの協力の成果を普及・継続させるためにINPPがこれからも努力し続けていくことを確認し、また地方校への支援展開の可能性も見えてきたことなど、短期間ではありますが、実りの多いミッションになりました。

Kin Life & Eat! - 特集! 出張者の一言その1-

現地に行く前は、治安や貧困等の面でネガティブな印象を抱いていたDRCでしたが、実際に足を踏み入れたらDay1からすっかり魅了されました。空港を出た直後から、当たり一面は人!人!人!まるで花火大会の帰りのような街の熱気に圧倒され、アドレナリンが大放しです。滞在中は業務の合間を縫って、ナイトクラブに踊りに行ったりとKinlifeを満喫しましたが、特に印象深いお店は、白波を立てて轟々と流れる激流コンゴ川沿いのレストラン“ChezTintin”です。正統派の魚料理等も出てくるのですが、今回の主役は虫料理。写真①の黒いのは、乾燥させた蛾?の幼虫を水で戻したものです。幼虫と目が合いそうになるのが難点ですが、干しエビのような風味で隣の緑のオクラとの相性は抜群でご飯が進みます。写真②の蟻か何かのそぼろは、素朴な味ですがご飯に乗ってアリ丼にして食べるとB級グルメ感が出て美味しいです。DRCは、洗練された上品なアフリカ料理が多いようですが、日本人に馴染みの薄い虫料理も堪能できる食文化の豊かな国でした。なお、写真③の枝は、現地の昔ながらの歯ブラシとのこと。使ってみたら案の定、歯茎から出血しましたが、振り返ってみると現地の文化の一端に触れられた素敵な思い出です。



写真① 我の幼虫



写真② 蟻そぼろ



写真③ 歯ブラシ

Kin Life & Eat! - 特集! 出張者の一言その2-



喉を潤してくれたコンゴビール達



仕立て屋を起業したルースさん

初めてコンゴ民案件の担当になり、まずは地図を見てみようとしてGoogleで検索したところ、その広さに衝撃を受けました(アフリカ大陸で2位、世界で11位)!楽しみにしていた初訪問では、空港からの道々、人の多さにも驚きました。人口約8000万人ということですが、最後の国勢調査は約30年前...(分かりませんが...)もっという可能性も!? そんな計り知れなさもコンゴ民の魅力ですね。たった1週間の滞在でしたが、地ビールの種類の多さには感激しました。写真の全4種、それぞれに特徴があり、どれも美味しかったです!第2の都市ルブンバシで生産されているという「シンバ」は今回出会えず、キンシャサでは幻のようなので、見つけた方は是非試してみてください。仕事では、職業訓練校の卒業生とも面談することができました。写真のルースさんは、縫製コースを卒業後、プロジェクトの支援でマイクロファイナンスを利用しミシンを買ってビジネスを本格化。成功は本人の努力ですが、職業訓練や金融へのアクセスがその後押しになったことが分かり、嬉しく思いました。彼女の作ったドレスを来た出張者2名の写真は本号のトップに。素敵なドレスですが、これは東京では着こなせませんね~。

INPPと共に働く専門家たちの苦勞は如何に！？

と専門家の皆様には聞いてはみたものの…もちろん、「研修機材がない」とか「次は〇〇の分野での支援を…」といった話が出てはきますが、そこはやはりコンゴ民の良心たるINPP。「しっかりと説明をすれば納得してくれる！自分たちでやるべきことやできることは自分たちで何とかしようとしてくれる！」とのお答え。

せっかくなので今回はそんなINPPのカウンターパートから自動車整備科についてご紹介させていただきます！

少々前の話になりますが…2017年1-3月、日本人専門家とマスタートレーナーにより、車の故障診断と修理実習を行いました。その際現地在住日本人の車が(筆者のも含めて)大変お世話になりました。また、2名のマスタートレーナーがトヨタCFAO技術研修所(カメルーン)での訓練に参加し、他のトヨタ/CFAO技術者の中でも遜色ない訓練成果を達成しました。(この訓練はTEAM21と呼ばれるトヨタ社が開発したプログラムに則って実施されており、CFAOとINPP連携に基づき特別に研修への参加を受け入れていただきました)

自動車整備場の改修も進み、指導員能力絶賛強化中の自動車整備科。「キンシャサでお困りの自動車がありましたら、ぜひ、INPPキンシャサ校まで、お持ちください。我ら自動車整備指導員たちが、診断・整備させていただきます！」とのなんとも頼もしいお言葉をいただきました！



大西洋に面した街、ムアンダへ！

コン月のイベント



大西洋に沈む夕日！



マングローフもあります！



石油もとれます！

内陸国と思われているコンゴ民ですが、実は大西洋に面しています(わずか34km程しかありませんが…)。その海岸沿いの街ムアンダまで行ってきました。キンシャサからは途中マタティで1泊し、2日間(約14時間)かけてようやく到着。行くだけでも疲れるのですが…着いてみれば広い空！潮の香り！予想よりもかなり整備された街並み！と、すぐに虜になってしまう街です。

砂浜では漁民たちが地引網による漁を行っており、新鮮な魚貝も入手可能です。魚好きなキノワ(キンシャサの人)は、ムアンダに来ると新鮮な魚を購入し、冷凍して自宅まで持ち帰るとか。

また、ムアンダでは街のいたるところで石油が掘られています。採掘企業が石油と共に掘り出す天然ガスを用いて発電しており、その量は、企業とムアンダの町全体がまかなえるほど。

さらに、コンゴ川が大西洋へ注ぐその河口周辺には、マングローフの森が広がっています。

その上、コンゴ民にはこれまでなかった、大型船舶受け入れ可能な港の整備計画も進んでおり、将来的には商工業地域も整備されるとのこと。

ビーチ、マングローフ、新鮮な魚貝、石油、そして港湾整備計画…

数年後には様々な魅力を持つ大都市へと発展していることでしょう！

(きっと、ね…)

愛すべき？コンゴ人

編集後記

所属：INPPボマ地方総局
校長

氏名：モコンバさん

INPPボマ総局を取り仕切る切切者。限られた機材や資産を工夫して有効に用い、同地域社会経済へ貢献する人材輩出というINPPミッションの質を高めるべく奮闘中。ムアンダ(ボマなど含む)視察ミッションでは全面的に協力、かゆいところに手の届く心配りに出張者も感激しました！

<☆今月のインガラ語☆> 「エロコヨマカシ」
サッカーにバスケット、コンゴ民ナショナルチームは…

前号の答えは、「気をつけて！」。通勤ラッシュ時の交差点…果敢に渡ろうとする歩行者に向かって「イエベラ！(気をつけて!)」。これは新しいインガラ語のようです。

編集担当者を交代して早半年、ようやく皆様のもとへ「キンシャサの軌跡」をお届けすることができました…今回はINPP特集となりましたが如何でしたでしょうか？
今後も「キンシャサ・コンゴ民の今」を(なるべく定期的に)発信していきます！引き続きお付き合いください。